

## ■第3回会議の議事録

日 時：令和2年11月24日（火）14時～15時

場 所：摂津市立コミュニティプラザ2階会議室1・2

出席者：鶴野会長、山下委員、馬渡委員、田中委員、榎谷委員、下村委員、島内委員、浅岡委員、隅本康介、花野委員、小林委員、野村委員

次 第：1 あいさつ

2 案件

（1）委員の変更について

（2）アンケート等の報告について

（3）次期摂津市障害福祉計画等（素案）について

（4）その他

### 会議の経過

○開会、新型コロナウイルス感染予防対策について説明、配布資料の確認

○会長によるあいさつの後、事務局より案件1「委員の変更」について説明

（10月13日付で茨木保健所の山内一寛地域保健課長が委員に就任）

○事務局より案件2「アンケート等の報告」について説明

（事務局）

- ・ 書面開催となった第2回協議会で報告書への記載方法についてご意見があった。
- ・ 複数回答が可能なものはその旨がわかるように記載する。
- ・ グラフ上の数値で母数が小さいものはパーセンテージだけでなく実数も提示する。
- ・ 各項目の「その他」でどのような内容があったか、ピックアップして記載する。
- ・ 18歳以上のみ、18歳未満のみの質問は、その旨がわかるように注釈を入れる。
- ・ これに対して、「そのような形で修正させていただきます」と報告をしたが、委託業者の担当者が新型コロナウイルス感染症に罹患し、しばらくの間業務ができない状態が続いたこともあり、ご指摘を受けた項目について反映ができていないことをお詫びする。
- ・ 事業所・団体アンケート、事業所・団体ヒアリングについては次回の協議会で報告させていただきます。

（委員）

- ・ 18歳未満の回収状況について、前回30%だが今回は43.4%と1.4倍以上になっているが、何か要因はあるのか。
- ・ 18歳未満のうち発達障害と診断されたり、その疑いがある人が48.3%とかなり増えている。最近特にいろいろなところで発達支援は重要だし、研修テーマ等でもよく案内をいただく。このような発達障害の数の伸びの背景などについて何か情報があれば、教えてほしい。

（事務局）

- ・ アンケートの回収率が上がった大きな要因として、アンケート内容を少しスリム化して、前回よりも見やすい形に作り替えたことがあると考えている。ただ、18歳以上も同じように作り替えをしているので、結果的に18歳未満は回収率が良かったと考えている。

- ・「発達障害を診断されたり、その疑いがあると言われたことがある」と回答した方が48.3%いる背景については、詳細なデータは持ち合わせていない。
- ・本市では、出産育児課が所管となり1歳半健診など早い段階での健診フォローを行っている。保健師から病院等で検査を受けてもらうことを勧めたり、療育へ進んでもらう等のフォローを行っており、手厚い施策の一つになっている。裏付けのデータはないものの、そうした取組みが一つの要因ではないかと考えている。

(委員)

- ・発達障害については、健診という要因も含めてこれから分析は進んでいくと思うが、昔からそのような児童はいた。病院での診察等が増えたことで、発達障害、障害児がたくさん増えてきており、支援学校や支援学級が増えている。個人的にはそんなに急速に障害児者が増えていくものなのかと思う部分があったのでお聞きした。
- ・発達障害は、3障害別でいえば、精神の領域での支援対象になる人たちだと思う。その辺について、しっかりと分析した方がいいと思い、質問をさせていただいた。

(会長)

- ・一般論でいうと、メリット、デメリットがあり、名前がつくことによって支援につながる部分もあれば、逆に当事者にとって二次障害につながる部分もあり、非常に難しい問題だ。

(委員)

- ・私の子どもも発達障害と診察を受けて、「つくし」などに行っていた。摂津市は小学校から支援が手厚く、国語だけそこに通っていた。中学校は「あかつき」に入れてもらったが、そちらはほとんど行かなくて、高校は公立工業高校を受験し、普通の生活をしている。
- ・親としては、将来どう自立するかと考えていたので良かったと思うし、摂津市の小中学校のケアは手厚い。早く気づいてそういうところに行ったから、高校生にうまくなることができたとすごくありがたく思っている。
- ・これでいくと、どこかで減っていく人も出ると思う。障害者手帳をもらわずに、発達障害の診察を受けたとしても自立して行って、高校生くらいになる時に、この部類から外れていく人が出る。うちの子はたぶんそうだ。そういうことを踏まえると、もう少し全体像が見えるようにしないと難しいと思う。

(会長)

- ・大学で初めて発達障害がわかるというケースが非常に多い。かなりの数がスルーされてきたことが大きな問題で、そこまでくると親御さんもご本人も認めないという話になってくる。だからやはり、できるだけ早い時期に対応が必要だと日々実感している。
- ・38ページの今後の生活に対する考え方というところで、「今のまま家族と一緒に暮らしたい」が一番多いことが非常に気になるというご意見もあったが、私も同様の調査をいくつかすると同じような結果になっている。自分の結論としては、もう諦めていたり、イメージがなかなか掴めないということがあると思う。グループホームでの暮らしや一人暮らしというイメージがなかなか掴めない。親亡き後という前の段階で、親が動けなくなってどうするかという近々の問題として存在しているので、ここの状況を何とかしていかなければならないというのが、最大の課題と感じている。特に、地域移行と言われているが、その地域とは何かというところがまさに一番問われているということを感じている。

## ○事務局より案件3「次期摂津市障害福祉計画等（素案）」について説明

（委員）

- ・ 障害者施策の中に「居住支援」という視点がまったくない。アンケート結果では「今後の生活に対する考え方」や最初の属性で住まいについて尋ねているが、例えば借家に関わるようなことは問いかけがなく、実態がどうなのかがよくわからない。居住支援に関して施策展開が必要かどうかということについて、アンケートでは押さえられていない。
- ・ 例えば、精神障害で病院から退院しようとした時に、一人で暮らしていく条件はあるのかどうか。大家さんがいろいろな意味で不安を持っていて貸さない。住宅を確保するのにいろいろな配慮が必要な方、障害に関わらず高齢者が一人暮らしを続けていくうえで、地震、台風があった後に老朽化した住宅を改めて立て直すにあたって放り出され、行き先がない。連帯保証人の問題を言われた時にうまく解決できないという問題がある。
- ・ これらは高齢者かがやきプランでもいろいろ話をしていることだが、障害者施策の中でもかなり大きな問題に今後なっていくと思う。それがまったく出てきていない。摂津市にそのような状況がないのか、あるいは見えてこないのかよくわからないが、どうなのか。
- ・ 全国的には住宅セーフティネットに関する新しい法律ができたり、いろいろな大家さんや不動産業者を含めて、一定の社会的なコンセンサスを得ていかないと、なかなか地域で暮らし続けていくことができないという問題があるので、そこを踏まえたような施策、支援するような手立てがやはり必要だ。それが、この計画の中にはないので、そこは押さえが必要と思うが、いかがか。

（事務局）

- ・ 居住支援という表現をされたが、障害者の地域生活を支援するという形で、居住支援も入ってくると考えている。精神障害についても地域で生活することを支援するような意味合いで使われているので、その中で検討していきたいと考えている。

（委員）

- ・ 社会福祉という概念の中で、居住支援はほぼ抜け落ちてきた歴史的な背景があり、住まいの話はそう出てこない。しかし、本当は衣食住の三つが少なくとも保障されることによっていろいろな生活が保障されていく。福祉が個人の人権に関わる問題として位置づけ直されている中で言えば、住まいの確保は、非常に大きなウェイトを占めてくると思う。
- ・ 一定の施策の中で触れられているということはよくわかるが、きちっとした項目として、居住の支援、住まいの確保についての項目を立てるべきだと思う。その内容がどの程度充実できるかだが、いろいろ現状の手立てはあると思う。摂津市も、市営住宅への連帯保証人の必要な条件を外した。制度改正もされている。ただ、居住支援法人は高齢者を対象としてはあるが、なかなか進んでいない状況はある。
- ・ 協議会を作らなければならないと私たちも考えているが、障害者施策としても位置づけていく必要がきっとあると思う。項目として立てることを考えた方がいい。

（事務局）

- ・ 主旨は理解した。今後、その視点も含めて検討していきたい。
- ・ 住まいの確保の件で、精神障害の方が賃貸契約を結ぶにあたって大家さんとのいろいろな問題があると意見があったが、今回の事業所・団体アンケート、事業所・団体ヒアリング

の中でも、そういったご意見が複数挙がっていた。差別解消法ができたとはいえ、やはりそのような問題が現実の世界ではまだまだあると把握できたところだ。どういった記載方法ができるのかは協議させていただくが、貴重なご意見として承りたい。

(委員)

- ・ 地域生活への移行といった場合でも、入所施設からボロボロな家と高齢の親と暮らすところに戻ることが良かったといえるのかという話になる。自立した地域生活とは何なのかということを理念としてかなり明確にしないとぼやけてくる。
- ・ どこに住むのか、誰と住むのかという話にたぶんなと思うし、どこに住むのかという居住の部分は、どうしても一番の核になる部分ではないかと思っている。地域生活への移行という部分でいろいろ見えるが、数値目標ではなく理念の部分なのかもわからないが、少し考えるべき点ではあると思い、聞かせてもらった。

○事務局より案件4「その他」として今後の予定について説明の後、閉会する

(以上)